

小中一貫教育だより

加東市教育委員会 小中一貫教育推進室
E-mail shochu-ikkan@city.kato.lg.jp
令和4年7月20日発行

社地域・滝野地域の小小交流を紹介します ～5年生自然学校での交流～

社地域と滝野地域の小・中学校は、小中一貫校開校に向けて、小小交流や小中交流を大切にしています。社地域では、小学校間で4校交流（福田小、米田小、三草小、鴨川小）や社小学校を加えた5校交流が実施されています。学年ごとに、遊びやレクリエーションなどの交流、消防署やクリーンセンターへの合同見学、授業の中でのリモート交流などが行われています。社地域の小小交流のうち、5年生の5校交流の取組を紹介します。



【社地域4校交流
自然学校(レクリエーション)】

6月21日（火）、福田小、米田小、三草小、鴨川小の5年生が、社小学校に集い、スポーツ交流を行いました。この交流には、自然学校に向けて、一人でも多くの友だちの名前と顔を覚えるねらいがありました。自然学校の活動班と同じ8つの班に分かれ、自己紹介ゲームやドッジボールをしてチームワークを高めました。交流会の閉会式では、「また、会いましょう。」という言葉で締めくくられ、社小学校の子どもが先に体育館を後にするときには、福田小、米田小、三草小、鴨川小の子どもたちが大きく手を振って見送る姿がありました。



【社地域5校交流 ドッジボール】

そして、再び5校の5年生が、7月7日（木）の自然学校2日目に、「砂の造形」で出会いました。前回、交流した8つの班ごとに、何を造るのか相談するところから始まりました。時間が経つにつれて会話が増え、協力し合って砂を積み上げる姿や石や木切れで飾りつける姿がありました。1時間後には、城やカメなどすてきな作品が完成しました。どの班も、子どもたちの表情は、達成感と満足感で満ち溢れていました。



【社地域5校交流
自然学校(砂の造形)】

滝野地域でも、滝野東小・滝野南小の5年生が自然学校を通して交流を深めました。期間中、両校の子どもが共に生活し、共に活動することで、子ども同士の間を深めました。キャンドルサービスでは、ろうそくの炎を見つめながら互いの成長を振り返りました。

2校間の交流は、中学校進学の際の人間関係づくりにも役立っています。



【滝野地域小小交流
自然学校(キャンドルサービス)】

今後も、社地域は令和7年度の開校を、滝野地域は令和9年度の開校を見据えて、小小交流を計画的に実施し、学校間の子ども同士のつながりを大切にしていきます。

東条学園小中学校 「第2回つなぐ平和学習会」を紹介します ～6年生から9年生へ～

東条学園小中学校で6月30日（木）に開催された「第2回つなぐ平和学習会」を紹介します。前回5月の平和学習会では、9年生が沖縄修学旅行で学んできたことを、広島を訪れる6年生へ伝えました。今回は、6年生が広島校外学習で学んできたことを9年生へ伝えました。

6年生は、大和ミュージアムや平和記念資料館で感じた戦争の悲惨さや被爆された人々の悲しみを、9年生へ伝えました。6年生からは9年生へ向けて、「平和の大切さを次の世代に伝え、平和を守っていくことが、わたしたちの役目です。」というメッセージが伝えられました。一方で、6年生の思いを受け止めた9年生からは、「わたしたちの手でひとりでも多くの方が安心して暮らせる世の中にしていきたい。」というメッセージが返されました。

小中一貫教育では、上級生と下級生が共通のテーマで学び合う異学年同士の交流を意図的に計画することで、系統性を大切にしたい深い学びの実現に努めています。



【6年生から9年生へ向けて】

東条学園小中学校 地域学校協働本部を紹介します ～「通学路の見える化」～

東条学園小中学校では、昨年2月に地域学校協働本部が設置されました。地域学校協働本部は、「学校を核とした地域づくり」の実現に向け、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための組織です。委員は、地域学校協働推進員、地域団体の代表者又は社会教育の代表者、学校関係者から構成されています。地域学校協働本部は、開校と



同時に設置された学校運営協議会と同様、学校と地域が同じ目標に向かう【地域学校協働推進員 藤本氏】

て子どもを育てていくことで、ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもの育成をめざします。そのために、地域学校協働推進員が、学校と地域の橋渡し役となり、地域の声を学校へ、学校の声地域へ届けます。現在、推進員の藤本和之氏が、子どもたちの登下校の安全を守るべく「通学路の見える化」に取り組まれています。実際の通学路に行き、いつ、どこで、だれが見守り活動をされているのかを調べ、地図上にまとめられました。その調査結果に基づいて、地域へ見守り活動の協力を依頼したり、登下校中、子どもが困ったときに助けを求めることができる「東条110番の家」の設置へ向けて準備を進めたりしていただいています。

このように、東条学園小中学校では、「地域とともにある学校づくり」を進める学校運営協議会と「学校を核とした地域づくり」を進める地域学校協働本部を両輪として、地域ぐるみで学校を支援し、子どもの成長や安全を見守っていく活動が始まっています。